

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	WJOG13219G <i>BRAFV600E</i> 変異型切除不能進行・再発大腸癌に対する FOLFOXIRI+/- Bevacizumab 療法と Doublet 療法の有効性及び安全性に関する後方視 的検討
	研究目的	<i>BRAFV600E</i> という変異を有する切除不能進行大腸癌の頻度は 5-10% 程度と報告されており、同遺伝子変異を有する症例では進行が早く予後不 良と報告されています。過去の報告から、 <i>BRAFV600E</i> 変異を有する大腸 癌に対しては大腸癌でよく使用される 5-FU、オキサリプラチン、イリノ テカン、ペバシズマブ (BEV) の 4 剤を併用する FOLFOXIRI+BEV 療法が 推奨されています。しかしながら、 <i>BRAFV600E</i> 変異は希少であることか ら根拠となった報告は少数例での検証であり、この治療法の有効性につい て更なる検証が必要と考えられています。 以上のような背景から <i>BRAFV600E</i> 変異を有する切除不能進行・再発大 腸癌に対する 1 次治療の有効性を明らかにすることを目的として本研究が 計画されました。
	研究対象者	2014 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までに研究参加施設にて <i>BRAFV600E</i> 変異を有する切除不能進行・再発大腸癌に対して化学療法を うけた患者さん
	研究期間	西暦 2020 年 10 月 26 日 ~ 西暦 2022 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を 利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input type="checkbox"/> その他 (記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター	消化器内科・消化管 町田望
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等 共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	消化器内科・消化管 愛知県がんセンター 薬物療法部 室 圭 近畿大学奈良病院 腫瘍内科 田村 孝雄 近畿大学病院 腫瘍内科 中川 和彦 九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科 馬場 英司 恵佑会札幌病院 腫瘍内科 奥田 博介 慶應義塾大学病院 消化器内科 平田 賢郎 国立がん研究センター中央病院 消化管内科 朴 成和 埼玉県立がんセンター 消化器内科 原 浩樹 聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍内科 伊澤 直樹 静岡県立静岡がんセンター 消化器内科 安井 博史 石川県立中央病院 腫瘍内科 木藤 陽介 大分大学医学部附属病院 腫瘍内科 廣中 秀一 筑波大学附属病院 消化器内科 森脇 俊和

	<p>斗南病院 腫瘍内科 辻 靖 がん研究会有明病院 消化器化学療法科 山口 研成 名古屋医療センター 腫瘍内科 北川 智余恵 茨城県立中央病院 消化器内科 天貝 賢二 東京慈恵会医科大学附属病院 消化器・肝臓内科 澤田 亮一 JCHO 九州病院 血液・腫瘍内科 篠原 雄大 杏林大学医学部附属病院 腫瘍内科 古瀬 純司 九州がんセンター 消化管・腫瘍内科 江崎 泰斗 佐久総合病院佐久医療センター 腫瘍内科 長瀬 通隆 神戸市立医療センター中央市民病院 腫瘍内科 安井 久晃 大阪国際がんセンター 腫瘍内科 杉本 直俊 大阪医療センター 消化器内科 長谷川 裕子 東京都済生会中央病院 腫瘍内科 船越 信介 富山大学附属病院 第三内科 安田 一郎 兵庫県立がんセンター 消化器内科 津田 政広 国立がん研究センター東病院 消化管内科 設楽 紘平 宮崎大学医学部附属病院 臨床腫瘍科 細川 歩 神奈川県立がんセンター 消化器内科（消化管） 町田 望 岐阜大学医学部附属病院 腫瘍外科・がんセンター 吉田 和弘</p>
--	--